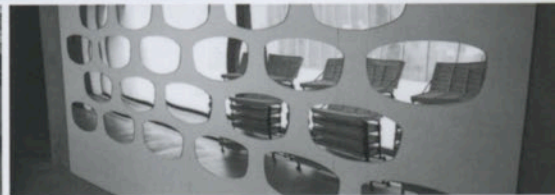


pen
BOOKS

ベンジャミン・リリー「写真」×ペン編集部「編」

創造の現場。



創造の現場。
ベンジャミン・リリー「写真」×ペン編集部「編」

祖国ペルーが、NYで 光のドロローイングに昇華。

■ グリマネサ・アモロス
アーティスト

ソーホーの南、トライベッカにスタジオを構えるグリマネサ・アモロス。ビルの入り口では、天井に設置されたライト・スカルプチャーがお出迎え。泡をつなげたようなドーム形のオブジェがやわらかな光を放っている。

5階の彼女のスタジオを埋めるのは、空間のドロローイングともいふべきチューブの曲線だ。そのチューブの中を幾千もの光の粒が膨らんでは消えていく。キネティックでオーガニック。微かに色を帯びた光によつて、曲線は七色の光の饗宴を生み出す。

「コンピューター制御の発光システムは、設置場所や人の動きを考慮して組み立てます。スタジオはラボみたいなもので、ここにあるのはモックアップ。実際の作品は、高さ5mはあるかな」完成作は、2012年秋、メキシコ市内の彫刻ホールに恒久設置された。「チューブの材質はポリカーボネート。ガラスより丈夫で、しかも柔軟性がある。中の光は発光ダイオードだ

から、ほら触ってみて。冷たいまま」

触ったり、中を歩いたり、鑑賞者が親しみやすいアモロスの作品は、水にも強く、野外展示に打ってつけ。建築家との共同プロジェクトにも積極的だ。

ペルー出身のアモロスは、1980年代半ばにニューヨークにきた。当初、絵が中心だったが、いまの広いスタジオに移り、立体制作の夢が実現する。が、出産と子育てでアートから遠ざかり、2001年の9・11では、一時スタジオ脱出を余儀なくされた。

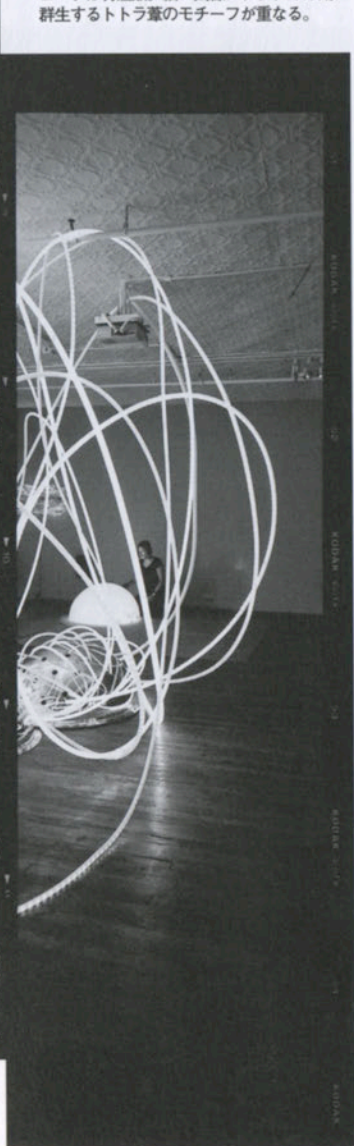
その間、故郷を旅したことが転機となる。アンデス山中チチカカ湖に残るトトラ葦の浮き島、朝焼けから日没まで変わることはない透明な光。そんな祖国の環境に刺激された。最先端の素材や技術を追い求めながらも、「自分に最も近いもの」を表現していきたいという。ニューヨークのスタジオで生まれる光のドロローイングには、アモロスの核が脈打っている。



Grimanesa Amorós

● 1962年ペルーのリマ生まれ。84年からニューヨークを拠点。2011年ベネチア・ビエンナーレで発表した光の彫刻で話題に。12年イッセイミヤケNY店で展示、13年のアートバーゼル香港で新作を発表した。
www.grimanesaamoros.com

「ウンチャコ」と題された作品のマケット
(模型)。切れ目のないポリカーボネートのチ
ューブは特注品。細い曲線に、チチカカ湖に
群生するトトラ葦のモチーフが重なる。



あとがき

— 4年間のプロジェクトの完結を祝って

Penの連載「創造の現場。」での経験は素晴らしいものでした。世界の第一線で活躍する100人の創造者たちとの出会いは私の人生を彩るものになりました。読者の皆さまにも同じように思っ
て頂ければ、この上ない幸せです。

おそらく本書を読むことで、人はまったく異なる個性を持ち、才能が多様であることに気づくことでしょう。それこそが私たちの潜在能力を刺激し、引き出すものなのです。私たちは無限に続く宇宙の中で創造性を養い、想像力を広げるためにも常にインスピレーションを追求し続けなくてはなりません。

私の夢はこのプロジェクトを700人まで続けることです。それは地球上70億人のうちのほんの一部にすぎませんが、彼らの一人ひとりのストーリーに耳を傾けることで創造性を広げるためのインスピレーションを受けることでしょう。

このプロジェクトにたずさわってくださったライター、コーディネーターをはじめとするすべての皆さまに深く感謝申し上げます。特にPen編集部の安藤貴之編集長、井手ゆい氏、多田潤氏、書籍編集部の鶴田寛之編集長、小林薫氏、そして私のマネージャーのさかよりのりこにはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

Benjamin Lee ベンジャミン・リー

●1977年 ロンドンのソーホー地区にベンジャミン・リー・スタジオを設立。その後日本に拠点を移す。広告写真や著名人のポートレート作品は世界的に高い評価を得る。2014年、EYE OF GYREにて「草間彌生」とこしえの愛の部屋」写真展」を開催するなど活躍の場をさらに広げている。2010年1月から2014年4月までPenで連載された「創造の現場。」は大きな反響を呼んだ。英国デザインアート・ディレクション賞2度受賞。その他受賞多数。www.benjamin-lee.jp

Celebrating our 1460 day portrait project

The 100 portrait PEN project was a wonderful experience! Getting to meet so many interesting artists from around the world truly enriched my life, as I hope it will enrich the lives of everyone who reads their fascinating interviews.

This project makes one realize how different people are, with their diverse talents and achievements, and this wonderful diversity is what stimulates the development of our own potential. We should always seek inspiration to nourish our creativity and expand our imaginations, which are as unlimited as the universe.

My hope is to continue this portrait project with 700 artists and creators, even though this only represents a small part of the 7 billion unique people that fill our world. The inspiring stories of these 700 interesting and accomplished people can only serve to expand our creativity.

Many thanks to all of the editors, writers, and coordinators who worked with us, especially Takayuki Ando, Yui Ide, and Jun Tada, the editors of Pen Magazine, Hiroyuki Tsuruta and Kaoru Kobayashi, the editors of Pen Books, and my manager, Noriko Sakayori.

A stylized, cursive handwritten signature in black ink, which appears to be the name 'Bruce Lee'.